



Jamie Kinschiff

ジェイミー・キンショーフ

ホームページ: www.kinscherffguitars.com

橋や飛行機の翼の エンジニアリングのコンセプトを プレーシングに使用。

子供の頃からギター作りに興味を持っていたジェイミーは、1978年にまだ小さな工房だったテイラー・ギターに入り、本格的にギター作りを勉強した。当時テイラーにはボブ・テイラーを含めて、職人が4人しかいなかったとか。80年に地元テキサスにもどり、ダラスに工房を構えてリペアや自分のギターの製作を始めた。86、87年に世界放浪の旅をした後、89年まで再びテイラーで働くことになる。この時ブリードラブ・ギターのラリー・ブリードラブと一緒に働いていた。そして1990年にテキサスに戻り、今度はオースティンの近くに工房を構え、キンショーフ・ギターの製作を始めた。ポピュラーなSJサイズのHigh NoonとロングスケールのL-00サイズのスティール・ストリングス・フラットトップを中心に、年15~18本のベースで製作している。上質なブラジリアン、インディアン・ローズウッド、マホガニーなどの伝統的な材を好んで使用している。ネックはもちろんテイラー仕込のボルトオン。そしてもっともユニークなのは、穴が開いたXプレーシング。[Xプレーシングなんだけど、73個の穴を開けているんだ。コンセプトは、橋や飛行機の翼の構造を基にしているんだ。軽いけどとても丈夫なんだ。このプレーシングによって、サスティーンがあり

ボリュームの大きい音を作り出すことができるんだ。フィンガースタイルには特に最高だよ。最初は皆私のことをクレージーだと思っていたようだけど、実際に弾いて見ると皆が納得してくれるんだ。]。伝統的なクラフトマン・シップの中に、革新的なアイデアを取り入れた、斬新なフィンガースタイル・ギターです。

David Berkowitz

デイヴィッド・バーコウィッツ

ホームページ: berkowitzguitars.com

バリトン・ギターで有名な首都 ワシントンDCのルシアー。

デビッド・ラッセルヤングやアービン・ソローンの本からインスピレーションを受けたデイヴィッドは、1985年に、ギター製作学校としてお馴染みのロバートベンにてギター製作の勉強をする。また後にチャールス・フォックスのもとでも修行している。1995年からフルタイムで製作に励んでいるデイヴィッドはアメリカの首都、ワシントンDCに工房を構えている。彼はF(OMサイズ)とJ(ミディアム・ジャンボ)の6ストリングス、2種類のバリトン・ギター、そしてアコースティック・ベースを製作している。Fモデルは今年発表したニュー・モデルだそう。[私は初めにバリトン・ギターで知られるようになったので、普通の6弦ギターに後から戻ってきたという感じなんだ。バリトン・ギターにはコア、マホガニー、ウォールナットなどの音の分離のよいクリアーなトーンの木を好んで使っているんだ]と語っていた。試奏させてもらった彼のバリトン・ギターは、評判通りクリアーでしっかりしたベースと、そのすぐれた演奏性で人気があるのがうなずける。今回のショーには、他に美しいポルティッド・シカモアのギターと、ジリコーテのギターを展示していた。

Harvey Leach

ハーヴィー・リーチ

ホームページ: leachguitars.com

“Voyage-Air”は、 機内持ち込み可能な ハイクオリティー折りたたみ式ギター。

おなじみハーヴィー・リーチは、なんと機内に持ち込み可能な折りたたみ式のギター“Voyage-Air”を発表。ネック・ジョイントに隠された蝶つがいによって折りたたむことで、専用ケースにすっぽりと収まるようになっている。「ハイクオリティーなギターで、機内に安心して持ち込めるギターが欲しい、という声を以前からよく聞いていたんだ。僕のギターのどのモデル(15インチ以下のもの)にも取り入れられるオプションで、折りたたみ式のネックが付いていて、機内に持ち込み可能な小さなケースに収まるんだ。ネックを折りたたみ式にしたら、かえってサスティーンが良い音になったんだ。]。なんとおびつりなアイデアで、その音や演奏性を犠牲にすることなく、折りたたみ式のギターを作ってしまったハーヴィーに脱帽だ。

Laurie Williams

ローリー・ウィリアムス

ホームページ: www.guitars.co.nz

ニュージーランドの自然を感じる 古代ケリーを使ったギター。

ローリー・ウィリアムスは、昨年ヒルズバークでも評価が高かったニュージーランドの新星ルシアーだ。ニュージーランドの北島の静かな工房で、一人で黙々と製作しているローリーは、12年前にギター作りを始め、フラットトップを中心に製作しているが、アーチトップやマンドリンも製作する。フラットトップはジャンボ、OM、パーラーの3

< Jamie Kinschiff > 1.2. キンショーフの人気モデル“ハイヌーン”。 3. ジェイミー・キンショーフのディスプレー。 4. 73個の穴があいているプレーシングは、本当に構みたくいに見えます。 < David Berkowitz > 5.6.8. 今年新しく発表したFモデルは、美しいシカモアをバックに使用。ヘッドのロゴは日本の家紋みたいです。 7. 首都ワシントンDCのルシアー、デイヴィッド・バーコウィッツは、バリトン・ギターで有名です。 < Harvey Leach > 9. ハーヴィー・リーチは折りたたみ式ギター“Voyage-Air”を発表。ネックのところで折りたたむためのピクリンなアイデア。 10. ヒールに隠された蝶つがい。 11. 専用ケースに収まり、機内持ち込みもらくらく。 < Laurie Williams > 12. ニュージーランドの新星ローリー・ウィリアムスは、フラットトップとマンドリンを展示。 13. ウィリアムスの人気モデルは、フィンガースタイルに最適。

